



それは、「牧師に  
 考えさせられた。  
 た部分に、特に  
 話に共通してい  
 だった。二人の  
 教団副議長と、岡本知之前副議長の講演

▼何より、伝道・牧会の現場に出  
 て、働き始めたばかりの方々た  
 ら新鮮だ。年齢的には、多分平均40才代  
 になるだろうし、60代70代の人も珍しく  
 はない。しかし、どこか初々しい。  
 ▼今回感銘を受けたのは、佐々木美智夫

## 新任教師研修会で

▼教団の新任教師オリエンテーションに  
 参加した。3年連続、計6回目になるか  
 と思う。前の3回は「教団新報」の取材  
 後の3回は出版局の立場からお話しさせ  
 られるのだが、毎回、教えると言っより  
 は、いろいろと教えられ、考えさ  
 せられる。

ということ。佐々木先生は、新人の時に、  
 説教を聞き、批評してくれた先輩牧師の  
 例を挙げ、岡本先生は話を親身になっ  
 て聞いてくれる同僚牧師を上げた。  
 ▼殆どの場合、牧師は教会の中で同僚や

上司を持たない。最初から孤独だ。訓練  
 を受ける機会もないし、そもそも他の人  
 の説教を聞く機会も少ない。殆どの牧師  
 が独り手探りで、経験を積み重ねて行く  
 のだ。  
 ▼石橋秀雄議長と佐々木副議長の話も、  
 重なる部分があった。石橋先生は、今で  
 も早口だが、若い時はその倍速だったそ  
 うだ。「説教を聞いた人は、多分何も分  
 からなかったろう。経験がないだけ説教  
 も内容が薄かったろう。しかし、兎に角

# 玉川教会たより

NO. 470

6月21日

熱心に聞いてくれた、それによって育て  
 られた」と振り返った。佐々木先生は、  
 「説教をありがとうございましたと、毎  
 週お礼を言い、しかし、「良かった」と  
 か「良くなかった」とかの批評は一切し  
 ない婦人の例を挙げた。「説教は良いと  
 か悪いとかではなく、正しく福音が語ら  
 れているかだけだ」との主張には教えら  
 れた。  
 ▼ところで、朝礼拜で、新任教師が説教  
 を担当した。年齢も若い新人だが、なが  
 なかのものだった。その人が、説教の前  
 に先ず折った。それでホーリネスの伝  
 統の教会だと知れた。このことは、つい  
 先日、小松川教会で説教の奉仕をした時  
 に初めて知った。説教の後に祈るのが  
 普通だが説教前に。これは正しいので  
 はないかと、考えさせられた。  
 ▼一個の人間の話に過ぎない説教が、し  
 かし説教として成り立つのは、そもそも  
 人間の営みに過ぎない礼拝が、しかし礼  
 拜として成り立つのは、祈りと聖霊の働  
 きによる以外はないだろう。私たちの  
 教会でも、何よりもこのことだ。話す  
 者と、聞く者と、祈り、聖霊を受けるこ  
 と、それ以外に礼拝の向上はないだろう。

## 6～8月の諸集会

- 日本基督教団創立記念日  
6月24日(水)  
普段の祈禱会を持ちます。
- 婦人会野外例会  
6月26日(金)  
於、「汚れなきマリヤの  
家」、タウシーでまいりま  
す。詳細は別紙案内を。
- 特別伝道礼拝  
6月28日(日)  
「人世の転換」  
寺窪俊之牧師  
(聖學院大学院教授)
- 役員研修会  
6月28日(日) 礼拝後  
14年度15年度役員、伝道  
委員が参加します。それ  
以外では是非参加したい方  
は、お申し出下さい。
- CSサマーキャンプ  
8月6～8日(木～土)  
昨年と同じ会場で行いま  
す。今から、「予定下さ  
い。

諸集会を覚えて、  
ご加禱下さい。